

お知らせ

太田美穂まで。 m-ota@kawade.co.jp
(電話) 03・3404・8611
(FAX) 03・3404・1377

◆今年の「文学セミナー」はオンラインで「朗読&トーク」

「遠藤文学原点の旅」は残念ながら今年も中止ですが、旅の準備として毎年行なってきた「文学セミナー」は、この夏、形を変えてオンラインで行ないたいと思います。取りあげるのは、遠藤周作の新作として話題になっている若き日の小説『稔と仔犬』です。

日時 7月9日(土) 14時～16時
朗読&トーク 『稔と仔犬』

朗読 亀岡園子
お話し 今井真理

※『沈黙』の原点ともいえる短篇「稔と仔犬」をほぼノーカットで朗読し、それにまつわるエピソード等をご紹介します。

参加を希望される方は、7月2日(土)までに、左記「周作クラブ」へメールでお申込みください。

Shusaku_club@yahoo.co.jp

事務局から参加のためのURLをお送りします。初めての方でも簡単に参加が可能ですので、ふるってお申込みください。お待ちしております。

◆遠藤周作の新作本

『稔と仔犬 青いお城』

—— 遠藤周作初期童話 ——
河出書房新社

定価1,980円(税込)

芥川賞受賞直後の、若き日に発表された幻の短篇、中篇を初単行本化。表題作の「稔と仔犬」は『沈黙』の原点ともいっていい作品。解題・解説は今井真理。

お問合せは、河出書房新社編集部、

『善人たち』(戯曲)
新潮社 3月末発売

定価1,870円(税込)

昨年暮れに発見された未発表戯曲3篇が早くも単行本化されました。表題作のほか、「戯曲『わたしが棄てた女』」「切支丹大名・小西行長——『鉄の首枷』戯曲版」を収録。とくに「善人たち」は、日米開戦直前にアメリカに渡った日本人留学生が味わった複雑な「善意」を描いた作品で、これまでの遠藤文学になかった設定と舞台で注目されます。

『怪奇小説集 恐怖の窓』
角川文庫 4月末発売

定価858円(税込)

表題「恐怖の窓」、「蜘蛛——周作恐怖譚」あとがき」を含め16篇の怪奇小説集。「サド侯爵の犯罪」は月刊誌「知性」(1955・3)に発表され、単行本未収録作品として今回掲載された。

◆緊急特別講座

遠藤周作・発見された戯曲

『善人たち』について

朝日カルチャーセンター新宿

講座名「文章で表現する技術」
講師 加藤宗哉

※オンラインでの参加も可。
日時 6月10日(金)

13時～14時30分

会場 朝日カルチャーセンター新宿
※発見の経緯から、作品の魅力とテーマ、小説とは異なる独特の技法について紹介します。

受講料

会員 3,300円+設備費165円
一般 4,400円+設備費165円
申込先 朝日カルチャーセンター新宿

03・3344・1945

東京都新宿区西新宿2の6の1 新宿住友ビル10階。最寄り駅は都営大江戸線「都庁前」駅、もしくはJR「新宿」駅西口。

◆遠藤周作研究

研究動向「遠藤周作」 笛木美佳

昭和文学研究 第84集3/1発行
内容：近年では『遠藤周作全日記』上下巻(河出書房新社)、『遠藤周作事典』(鼎書房)の刊行が特筆される。過去十年に刊行された研究書は二十冊、近年は作家活動を相対化する研究が進み、

①同時代における意味づけ ②キーワードを立てての遠藤文学全体像の捕捉、③外国文学研究者による新しい視点の導入、④神学的観点からの検証・意味づけ、⑤史料の検証による相対評価の五つに分類できる。今後は、遠藤文学を生み出した「芸術体験」や先輩・同世代作家との関係、対談、ゆかりの土地の研究などが期待される。問合せ先は、昭和女子大学日本語日本文学科・笛木美佳 (f.mika@swu.ac.jp)まで。

◆「会報」の原稿募集

会員の皆さんの原稿を募集します。900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど何でも結構です。

なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送してください。掲載の際にはご連絡差しあげます。

✿編集後記✿

▼遠藤周作先生が亡くなったのは、1996年(平成8年)9月29日のことです。その日僕は、たまたま尾崎秀樹先生のお宅におじゃましておりました。するとテレビのニュースが、「遠藤周作の訃報」を報じているではありませんか。

▼僕は、取るものも取りあえず、先生の入院先である慶応病院に駆け付けました。とはいえ、夜のことでもあり、ご遺体に面会は叶いませんでした。ですが翌日、ご自宅に帰られた先生に、お別れすることができました。そして、ご葬儀いっさいが終わるまで、裏方として働いたのでした。

▼その後、先生ゆかりの各地から、文学館建設の話があり、主に遠藤順子夫人と加藤宗哉さん、僕の三人で、それらの候補地を見て巡りました。その結果、順子夫人の強い思いもあって、『沈黙』の舞台となった長崎市外海町の、海辺の丘に決めたのでした。いま、そのころの思いが、しきりに胸中を駆け巡ります。しばらくぶりに、今年は外海に行ってみたいな、と……。

(颯)

「周作クラブ」第87号

2022年5月発行

■発行人 加賀 乙彦

■編集人 高橋千劍破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、清水優子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17
加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

Eメール Shusaku_club@yahoo.co.jp